

福島市・川俣町学校給食センターの仕組みを見てきました

おいしい給食がでぎるまで

意外と知らない 学校給食のこと



学校給食は、明治22年に山形県鶴岡市の小学校で、当時は貧しい家庭が多く、子どもたちの栄養を改善するために、おにぎりや漬物、焼き魚などが提供されたことがはじまりと言われています。

その後、昭和29年に、児童・生徒の心と体の健全な発達を助けることを目的に「学校給食法」が制定され、次第に全国で学校給食が始まるようになりました。

川俣町では、平成19年3月に福島市と共同で「福島市・川俣町学校給食センター」を設置し、平成19年4月27日から給食の提供を開始しました。

提供開始から今年度で10年目となり、小・中学生に



プチ
情報

給食費の半額を町が負担

町は、子育て環境の充実と、子育て世代の負担軽減のため、今年度から給食費の半額を負担することになりました。給食は、小学生1食260円、中学生1食310円の予算で作られていますので、保護者と町でそれぞれ、小学生なら1食130円、中学生なら1食155円を負担し合っているということになります。

は当たり前前になっっている学校給食ですが、その親御さんをはじめ、私たち町民は、普段、給食に触れる機会がほとんどなく、「給食がどのようなものなのか」「どのようにつくられているのか」などわからない方も多いと思います。

6月は食育月間でもありまして、今月号の広報かわまたでは、「学校給食のこと」をご紹介します。

普段、子どもたちがどんなものを食べているのか、給食はどのようにつくられているのかを、ぜひご覧になってください。

福島市・川俣町給食センター調理室のようす